科目ナンバリング	U-LAS06 20002 LJ41						
授業科目名<英訳>	思想と法 Law and Legal Thoughts			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授　菊池　亨輔		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	法・政治・経済(各論)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	水1	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

現代日本の法は、主として近代以降の西洋の法思想をその背景として成り立つ。法思想は、条文や判例の解釈という範疇に収まるものではなく、哲学・政治学・経済学等々の考察と法とが交差した領域である。近代以降の主要な法思想に立ち戻り、思想的流れを踏まえつつ、法・法的思考・正義・国家・秩序などをめぐる諸思想を概観することで、今日の法や社会のあり方を多角的・根源的に捉える力を養う。

[到達目標]

①西洋近代の法・社会思想の探究を通じて、現代日本の法および法学の基礎をなす諸観念と理論的背景について理解を深める。
②法や正義をめぐる多様な思想それぞれの基本的な理論構造と展開を追うことで、抽象度の高い理論・概念を的確に把握する能力を身につける。
③個々の思想が生まれた時代的背景に意識を向けるとともに、先行する思想との連続性や断絶にも思索を巡らせ、思想の流れと相互連関を理解する。
④現在の日本法を相対化し、別様の法および秩序の在り方を構想する思考基盤を獲得する。

[授業計画と内容]

概ね以下の内容を扱うが、授業の進度や受講生の関心に応じて、時間配分等を変更することがある。

第1回　オリエンテーション（授業の進め方、法思想を学ぶ意義について）
第2回　近代法思想の始まりと社会契約論
第3回　社会契約論と啓蒙の法思想
第4回　啓蒙の法思想とドイツ観念論
第5回　功利主義と分析法理学
第6回　アメリカ法思想の始まり
第7回　歴史法学からパンデクテン法学へ
第8回　パンデクテン法学の克服
第9回　リアリズム法学
第10回 ワイマール期の法思想
第11回 第二次世界大戦後の法理論
第12回 現代法理論の展開
第13回 ロールズ正義論
第14回 リバタリアニズムと共同体主義
≪期末試験≫
第15回　フィードバック

思想と法(2)へ続く↓↓↓

思想と法(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

定期試験により評価する（100%）。

[教科書]

中山竜一ほか『法思想史』（有斐閣、2019年）ISBN: 9784641221338

[参考書等]

（参考書）
戒能通弘ほか『法思想史を読み解く〔第2版〕』（法律文化社、2024年）ISBN:9784589043481
その他に講義中に随時紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書を読み文章から議論の構造を把握し、思考を深めること。
なお、中学生レベルの世界史の知識を前提に講義を進める。

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]

総合人間学部